

# デジタルアーカイブのある未来の ミュージアム

高野明彦（国立情報学研究所）

1

## 文化的記憶の担い手：MLA

記憶機関（Memory Institution）

- ・ **M**useum：博物館、美術館、科学館
- ・ **L**ibrary：図書館、文学館
- ・ **A**rchive：公文書館、文書館

大学や寺社はこれらすべての要素を含んでいる

2

## MLAを特徴づける記憶メディアの性質

記憶機関（Memory Institution）

- ・ **Museum** : 遺物、自然標本、美術品 → 非複製物
- ・ **Library** : 図書、雑誌、視聴覚資料 → 複製物
- ・ **Archive** : 公文書館、文書館 → 公文書、古文書

記録を担うメディアの性質が異なる

3

## 記憶のデジタルアーカイブ化

電子化により記憶は複製可能な共通メディアをもった

- ・ **Museum** : 収蔵品の保存と複製可能な記録の追加
- ・ **Library, Archive** : 全文電子化、デジタル索引の追加  
資料発見方法の変革、内容による発見！

MLAを特徴づけていた本質的な違いが消滅！

- ・ MLAの融合が実現して区別がなくなるだろう

4

## デジタルアーカイブによるLibrary変革

- ・ 図書の全文デジタル化＝本の「デジタルツイン」
  - ⇒ 発見性が飛躍的に向上、情報提供の単位が自在、遠隔地からもオンラインで利用可能
- ・ OPAC検索、開架式書庫、閲覧空間、Online資料閲覧端末などを融合したサービスが可能
- ・ **新しい著作権法！** Library?の「デジタルツイン」

5

## Library変革からMuseum変革へ

- ・ 文化財のデジタル化＝文化財の「デジタルツイン」
  - Museumの外へ文化財のデジタル記録を提供
  - 関連するLibraryコンテンツと相互リンク
  - ⇒ **MLA**の壁を超えて記憶が相互につながる
- ・ 展示空間、所蔵品検索、ライブラリ閲覧空間などを融合したサービスが実現可能

6

## 未来のミュージアムは 収蔵記憶のデジタルツインを提供する

- ▷ すべての収蔵品はデジタル収蔵品でもある
- ▷ 利用者は主体的にリアル展示とデジタル収蔵庫を行き来できる
- ▷ ほとんどのサービスは館外からも利用できる (e.g. 学校、Museum)

7

## Museum Library 「デジタルツイン」の例

### 福岡市科学館サイエンスナビ

- ・ 別フロアでの展示体験を個々の目線で掘り下げる
- ・ 小学館図鑑NEO、Newtonムック、ナショナルジオなど  
関連記事や動画を閲覧できる
- ・ 自分の疑問が本物のコンテンツとの出会いに繋がり  
さらに大きな驚きを体験する

8

## 文化財の「デジタルツイン」

### 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板デジタルビューア

- ・ 現物の壁画は72年前に焼損
- ・ 昭和10年撮影の写真ガラス原板をデジタル化
  - 3D空間に配置された超高精細画像を眺められる
- ・ 当時の最先端技術による記録が、その時には存在しなかったデジタル情報に変換されて蘇った

9

## Museumデジタルアーカイブの進展

- ・ 世界各地のMuseum : MET, MoMA, Chicago, Rijksmuseum, British Museum, Smithsonian, 東京国立博物館, 奈良国立博物館, Tate, etc.
- ・ デジタルアーカイブ集約サイト : Europeana, DPLA, Trove, DigitalNZ, 文化遺産オンライン, ジャパンサーチ, カルチュラルジャパン

10



11



12

# 日本文化ポータル Cultural Japan

